令和6年6月21日
第18回高齢者医薬品適正使用検討会
資料1

令和5年度事業（業務手順書等の見直し）について

第15回・第16回の高齢者医薬品適正使用検討会での議論を踏まえた論点整理と今後の対応方針

令和5年4月28日
第17回高齢者医薬品適正使用検討会　資料2

令和５年度

- **ポリファーマシー対策状況のアンケート調査（好事例の抽出等）**
  - 医療機関や地域の取組みを調査

- **令和３、４年度事業の成果を踏まえた指針及び「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」（業務手順書）の見直しを実施**
  - 外部有識者により構成されるWGを運営し、改訂案の作成
  - 高齢者医薬品適正使用検討会において、改訂案の実効性について検討
  - 改訂した指針及び業務手順書の周知

《業務手順書等の見直しのポイント（現時点）》

・大病院だけでなく中小病院、診療所、薬局（地域）でも活用できるよう見直し
・多職種でのポリファーマシー対策チームの設置が難しい場合の取組みについて明記
・連携によるポリファーマシー対策を推進するための様式とその活用方法について検討
・電子処方せんやＩＣＴを活用した取組みを追記
・指針の別添の薬物リスト等について更新
・指針及び業務手順書の周知方法の検討

第15回・第16回の高齢者医薬品適正使用検討会での議論を踏まえた論点整理と今後の対応方針

令和5年4月28日
第17回高齢者医薬品適正使用検討会　資料2

現状

・令和２年度に、指針を活用し、ポリファーマシー対策の取組みを進めるツールとして、業務手順書を作成
・令和３年度は３病院で令和４年度は４地域で、業務手順書等を活用し、実用性と課題を確認

《業務手順書等の活用事例を踏まえての議論》

	第15回（R4.4.13）	第16回（R4.11.30）
業務手順書関係	・大病院ほどの人員や体制が整っていない病院におけるポリファーマシー対策の手法を業務手順書内で提示できれば、地域にポリファーマシー対策が広がるのではないか。 ・多職種のポリファーマシー対策チームを設置できない場合の取組みもあればよいのでは。 ・地域で手順書を使う場合の注意点や使い方等を示した追補版もしくは地域版業務手順書を作成するとよいのではないか。	・業務手順書の様式のひとつでもある「服薬情報提供書」のあり方について、医療従事者に再認識されるよう後押しをしていく必要があるのではないか ・お薬手帳を活用している地域の発表を受けて）患者や複数の医師・薬局の目にも触れるお薬手帳をうまく活用できたらよいのではないか
広報・啓発活動	・医師への認知度を上げるため、医師会等の研修会にポリファーマシー対策を盛り込むよう呼びかけることはどうか	・指針や業務手順書の普及がまだ不十分であることが判明したので、今以上に医療関係者（ポリファーマシーに関わる事業に携わる者）への啓発活動に注力してはどうか
その他	・医師の理解が重要であることから、医師に対する説明資料を作成してはどうか ・病院では、取組みを進めるためには（ポリファーマシー対策チームの設置を含めて）院長・副院長クラスの理解が必要 ・経済的な誘導として、診療報酬で様々な項目があれば進むのではないか ・ポリファーマシー対策によるアウトカムを結果によらず記載してはどうか	・電子処方箋の導入を踏まえてポリファーマシーをどう捉えていくか議論が必要ではないか ・ポリファーマシーに関する研究活動が現在少ないので、積極的に研究活動を進めるための取組みが必要ではないか

高齢者の医薬品適正使用推進事業に係る実態調査及び指針と業務手順書等の見直しの検討・作成（令和5年度委託事業）について

◆事業の目的

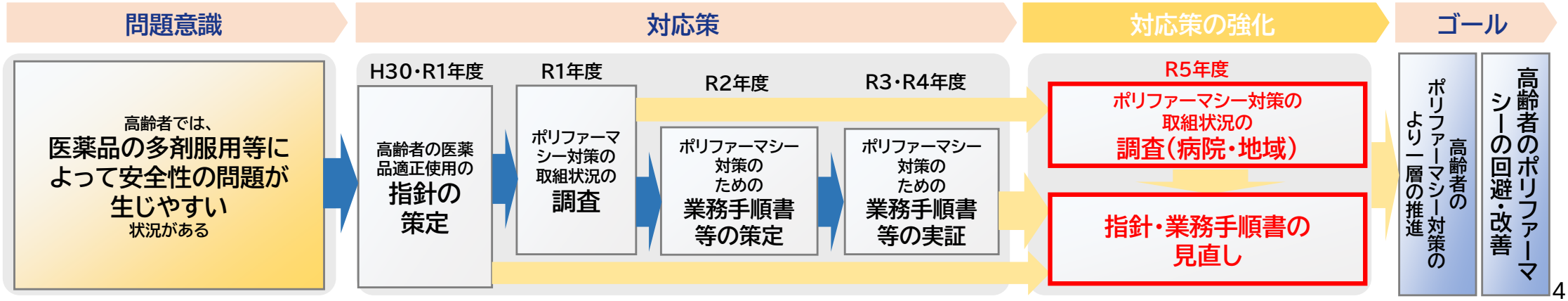
本事業では、高齢者のポリファーマシー対策のより一層の推進を図るため、令和元年度に実施した病院におけるポリファーマシー対策の取組状況調査を再度実施し直近時点におけるポリファーマシー対策の実態や課題等を把握し、また病院以外の地域におけるポリファーマシー対策の実態も把握する。また指針及び業務手順書等は作成から数年経過しているため、取組状況調査で明らかとなったポリファーマシー対策の新たな課題等や、令和3年度及び令和4年度の高齢者医薬品適正使用推進事業での成果等を踏まえて、指針及び業務手順書等をより使用しやすいものとし、また病院だけでなく地域においても活用できるよう、見直しを行うことを目的とする。

◆令和5年度事業の内容

- 病院や地域での取組に関するアンケート調査
  （参考資料１　報告書第２章及び第３章　参照）
- 高齢者の医薬品適正使用の指針別表3、別表4の改訂（参考資料２　参照）
- 病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方の改訂
  （参考資料３　参照）
- 地域における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方の作成
  （参考資料４　参照）
- 病院や地域におけるポリファーマシー対策にかかる提言
  （参考資料１　報告書（p136～p142）　参照）

◆委員会の委員名簿

○秋下	雅弘	一般社団法人 日本老年医学会 理事長 東京大学大学院 医学系研究科 加齢医学講座 教授
岡本	充子	社会医療法人近森会 統括看護部長　老人看護専門看護師
篠永	浩	三豊総合病院 薬剤部 副薬剤部長
橋場	元	公益社団法人 日本薬剤師会 常務理事
畑	世剛	一般社団法人 宝塚市薬剤師会 副会長
水上	勝義	筑波大学 人間総合科学学術院 教授　公益社団法人 日本精神神経学会
溝神	文博	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 薬剤部
美原	盤	公益社団法人 全日本病院協会 副会長
宮川	政昭	公益社団法人 日本医師会 常任理事

○委員長　（計９名，氏名五十音順　敬称略）

（令和5年度厚生労働省医薬局医薬安全対策課委託事業報告書より引用）